

年度	2014年度	開講部局	教養教育
講義コード	52002001	科目区分	パッケージ別科目
授業科目名	教育と人間[P2B,PN1]		
授業科目名 (フリガナ)	キョウイクトニンゲン		
英文授業科目名	Education and Man		
担当教員名	三時 眞貴子		
担当教員名 (フリガナ)	サントキ マキコ		
研究室の場所		内線番号	
E-mailアドレス			
開講キャンパス	東広島	開設期	1年次生 後期
曜日時限	火 3時限, 4時限	講義室	教K201
授業の方法	講義	授業の方法 【詳細情報】	講義中心、演習中心、板書多用、ディスカッション、学生の発表、野外実習、作業、薬品使用
単位	2	週時間	2
対象学生			
授業のキーワード	教育史 子ども		
教職専門科目		教科専門科目	
関連するプログラム			
教養教育又は パッケージの中での この授業の位置づけ	第2パッケージ:知の嘗みを問い直す		
学習の成果			
授業の目標・概要等	『児童の権利に関する条約』が締結され、子どもの権利の保障が法的に規定されて久しいが、しかし現実には、児童虐待や児童労働、子どもホームレス、子ども兵士など、国際的にも子ども被害はいまだ解決されない課題として現存している。これらは現代的な課題であると同時に、長きにわたる社会の子どもへのまなざしと対応の結果もたらされた歴史的課題でもある。本講義では、世界的な視座から子ども被害の基本的な課題や歴史的経緯を知ること、個々の学生が子ども被害に対して自らの考えを構築することを目的とする。		
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション 子ども被害の社会史の課題</p> <p>第2回 児童虐待の「発見」</p> <p>第3回 子どもの遺棄と保護の歴史</p> <p>第4回 児童虐待の対策と課題</p> <p>第5回 児童ポルノの問題性</p> <p>第6回 子どものセクシュアリティ</p> <p>第7回 児童ポルノをめぐる世界的動向と課題</p> <p>第8回 子どもホームレスの課題と現状</p> <p>第9回 子どもホームレスの事例：ウクライナ</p> <p>第10回 日本における若年「行方不明者（家出人）」</p> <p>第11回 児童労働と教育</p> <p>第12回 児童労働の事例：フィリピン</p> <p>第13回 子ども兵士の現状と課題</p> <p>第14回 子ども兵士の事例：スーダン</p> <p>第15回 「子ども被害の社会史」のまとめ</p> <p>第5回、第7回、第10回、第12回に小レポート課題を出します。 第15回には、いくつかの小レポートの内容を紹介し、最終レポートを書いてもらいます。</p>		
教科書・参考書等	特になし。 適宜紹介する。		
授業で使用する メディア・機器等	映像機器（DVD）、パワーポイント、配布資料		
予習・復習への アドバイス	児童虐待、児童ポルノ、子どもホームレス、児童労働、子ども兵士に関する書籍あるいは新聞記事等を読んで、知識と課題意識を高めることをお勧めします。		
履修上の注意 受講条件等	時折、ビデオ等の映像を見ることにはなりますが、テーマに沿った内容なので子どもの過酷な現状を目にすることもあります。 受講に関してはその点を留意して決めてください。		
成績評価の基準等	四回の小レポートと最終レポートから総合的に評価します。 レポートの評価では、論理性と思考力を中心に評価します。		
メッセージ	熱心な受講を望みます。		
その他	【パッケージ別科目共通資料掲載場所（もみじTop内）： https://momiji.hiroshima-u.ac.jp/momiji-top/learning/kyouyou/package.html 】 【受講希望者が250人を超えたときは受講者抽選を行う可能性があります。】		

学期末に授業評価アンケートを実施します。回答に協力してください。
回答に対しては教員からコメントを入力し、改善につなげていきます。
なお、受講者が著しく少ない場合などに、アンケートを実施しない場合があります。

年度	2014年度	開講部局	教養教育
講義コード	52003001	科目区分	パッケージ別科目
授業科目名	認知と学習[P2A,PN1]		
授業科目名 (フリガナ)	ニンチトガクシュウ		
英文授業科目名	Cognition and Learning		
担当教員名	坂田 省吾		
担当教員名 (フリガナ)	サカタ ショウゴ		
研究室の場所		内線番号	
E-mailアドレス			
開講キャンパス	東広島	開設期	1年次生 後期
曜日時限	火 1 時限, 2 時限	講義室	総L201
授業の方法	講義	授業の方法 【詳細情報】	講義中心, 質問に対する受け答え
単位	2	週時間	2
対象学生	第2パッケージ選択学生		
授業のキーワード	ものの見方, 認識, 真理, 心理, 科学, 比較, 認知, 学習, 根源から考える		
教職専門科目		教科専門科目	
関連するプログラム			
教養教育又は パッケージの中での この授業の位置づけ	第2パッケージ: 知の営みを問い直す (旧パッケージ名: 知の根源を問う) 比較認知科学から知性の起源やヒトの認知の特性を探ることを試みる。 脳科学・認知科学・行動科学と関連するほか、知の意味と淘汰を問うさまざまな 人文科学と関連している。		
学習の成果	ヒトのものの見方, 考え方が理解できるようになる。自分と他人のものの見方が比較できるようになる。		
授業の目標・概要等	自然科学の枠組みを踏み外さずに、動物たちの認知の世界を探ることによって、 人間の心のより深い理解をめざすことがこの講義のねらいである。		
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 認知とは 第3回 学習とは 第4回 学習の基本原理 第5回 動物がしめす認知判断 第6回 ハトの見たピカソ 第7回 右脳と左脳の認知的側面 第8回 マジカルナンバー7 第9回 作業記憶と参照記憶 第10回 私は誰か、人格と記憶 第11回 知性のインプリメンテーション 第12回 スリップ、主観的輪郭 第13回 認知情報処理 第14回 動物の認知・ヒトの認知 第15回 認知と学習のまとめ 試験を実施する		
教科書・参考書等	『21世紀の教養 5 知の根源を問う』 青木・坂田・林・平手・森本共編 培風館 『動物の錯視』 中村哲之著 京都大学学術出版会 『うぬぼれる脳』 ジュリアン・ポール・キーナン著 NHKブックス1054 『ピカソを見わかるハト』 渡辺茂著 NHKブックス747 『心の輪郭』 川合伸幸著 北大路書房 『バビー二の比較心理学 行動の進化と発達』 比較心理学研究会訳 北大路書房		
授業で使用する メディア・機器等	補助テキスト, 配付資料, 映像 (ビデオ/PC/その他画像資料)		
予習・復習への アドバイス	1. 遅刻せずに出席して疑問点は質問しましょう 2. 認知とは何かを予習しておいてください 3. 学習とは何かを予習しておいてください 4. 学習の基本原理の復習をしましょう 5. 動物がしめす認知判断とはどのようなものでしょうか 6. ハトはピカソをどう見ているか 7. 右脳と左脳の機能的違いとは? 8. 記憶容量を調べた実験は? 9. 作業記憶と参照記憶についてまとめておきましょう 10. 記憶処理を行っている脳の部位は? 11. 知性とは何でしょう? 12. 主観的輪郭が見えましたか? 13. 認知情報処理についてまとめておきましょう		

予習・復習への アドバイス	14. 動物とヒトの違いは何でしょう 15. 試験への準備を怠りなく
履修上の注意 受講条件等	第2パッケージ選択学生
成績評価の基準等	定期試験70%（程度）及び授業への参加態度30%（程度）により行う。
メッセージ	積極的な姿勢で授業へ参加することを望む
その他	【パッケージ別科目共通資料掲載場所（もみじTop内）： https://momiji.hiroshima-u.ac.jp/momiji-top/learning/kyouyou/package.html 】
<p>学期末に授業評価アンケートを実施します。回答に協力してください。 回答に対しては教員からコメントを入力し、改善につなげていきます。 なお、受講者が著しく少ない場合などに、アンケートを実施しない場合があります。</p>	

年度	2014年度	開講部局	教養教育
講義コード	52007002	科目区分	パッケージ別科目
授業科目名	コミュニケーションの哲学[P2A,PN1]		
授業科目名 (フリガナ)	コミュニケーションノテツガク		
英文授業科目名	Philosophy of Communication		
担当教員名	堀江 剛		
担当教員名 (フリガナ)	ホリエ ツヨシ		
研究室の場所		内線番号	
E-mailアドレス			
開講キャンパス	東広島	開設期	1年次生 後期
曜日時限	金 5 時限, 6 時限	講義室	総L101
授業の方法	講義	授業の方法 【詳細情報】	講義中心、板書多用
単位	2	週時間	2
対象学生			
授業のキーワード	コミュニケーション、記号 / 信号、意味、情報、相互作用、メディア		
教職専門科目		教科専門科目	
関連するプログラム			
教養教育又は パッケージの中での この授業の位置づけ	知の営みを問い直す(第2パッケージ): コミュニケーションの視点から、今日展開されている学問・思想における「知の営み」を領域横断的な仕方です「問い直す」。		
学習の成果			
授業の目標・概要等	講義では「コミュニケーションとは何か」という問いを出発点にして、その哲学的・思想的な新しさを考察する。コミュニケーションに関わる基本的な諸概念(信号/記号・意味・情報・相互作用・メディアなど)を中心に、数学・工学・生命理論・言語理論・文化理論・社会理論といった幅広い学問領域を紹介しつつ、最後に「コミュニケーションを哲学すること」の意義を考える。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション: コミュニケーションを問い直す / 基本的要素 2. 意味 <ul style="list-style-type: none"> ・コード / 文脈、象徴 ・意味をめぐる諸研究: ソシユール言語学など 3. 情報 <ul style="list-style-type: none"> ・情報とは何か ・情報理論 4. 相互作用 <ul style="list-style-type: none"> ・社会的相互作用 ・シンボリック相互作用論 / 社会システム論 5. メディア <ul style="list-style-type: none"> ・メディアとは何か ・メディア理論 / メディア発達史 6. まとめ: コミュニケーションを哲学することの意義 		
教科書・参考書等	授業中に適宜指示する。		
授業で使用する メディア・機器等	配付資料		
予習・復習への アドバイス	予習は必要ない。講義で聞いた内容をしっかり自分のノートにメモし、そこで考えた(考えさせられた)事柄も加えてメモすることを勧める。それがレポートや期末試験に反映されればよい。		
履修上の注意 受講条件等			
成績評価の基準等	レポート(30%程度: 学期中頃に一回)および期末試験(70%程度: 自筆ノートのみ持込可)により評価する。		
メッセージ			
その他	【パッケージ別科目共通資料掲載場所(もみじTop内): https://momiji.hiroshima-u.ac.jp/momiji-top/learning/kyouyou/package.html 】		
<p>学期末に授業評価アンケートを実施します。回答に協力してください。 回答に対しては教員からコメントを入力し、改善につなげていきます。 なお、受講者が著しく少ない場合などに、アンケートを実施しない場合があります。</p>			

年度	2014年度	開講部局	教養教育
講義コード	52008002	科目区分	パッケージ別科目
授業科目名	人間・歴史・風景の感性哲学[P2B,PN1]		
授業科目名 (フリガナ)	ニンゲン・レキシ・フウケイノカンセイテツガク		
英文授業科目名	Aesthetics and Sensibility Philosophy of the Human, History and Landscape		
担当教員名	桑島 秀樹		
担当教員名 (フリガナ)	クワジマ ヒデキ		
研究室の場所		内線番号	
E-mailアドレス			
開講キャンパス	東広島	開設期	1年次生 後期
曜日時限	火 3 時限, 4 時限	講義室	総L201
授業の方法	講義	授業の方法 【詳細情報】	講義中心：部屋を暗くして、大型スクリーンへのプロジェクター投射により、動画およびスライド写真などの映像資料を多用しながら、講義を進めます。残念ながら、講義中に一緒に映像を観ながら、説明を受けられない方には受講は向きません。
単位	2	週時間	2
対象学生			
授業のキーワード			
教職専門科目		教科専門科目	
関連するプログラム			
教養教育又は パッケージの中での この授業の位置づけ	第2パッケージ:知の営みを問い直す Aesthetics(美学 = 感性の学)やArt Science (芸術 / 技術の学) を基礎として、人間・歴史・風景を読み解く試みです。「感性」をめぐる哲学的な思考により、われわれの知の在り方を、具体的な側面から問いなおす科目。		
学習の成果			
授業の目標・概要等	本講義では、司馬遼太郎による思索的な紀行文『街道をゆく』シリーズを「議論のための基礎」として取りあげながら、この博学な作家の「眼」を借りて、受講生とともに、時間・空間を超えた想像力の「旅」に出ることを目標とする。「現場 (= フィールド)」に降り立った司馬の息づかい、換言すれば、五感をフルに活用する知的営為こそが、独創的で開かれた知の体系に結実していく。ここにみられるのは、具体的な経験に裏付けられた人間存在をめぐる一個の感性哲学といってもよい。旅先での「生身の人間」の再発見に立ちあつたときの興奮は、あやまたずわれわれの知的探求心を駆動させてくる。このような「人(ひと)」「史(ふみ)」「土(くに)」をめぐる壮大な知のスペクタクルは、『街道をゆく』のような総合的な業績をしっかりと読破することでしか理解されまい。さあ、いっしょに「知の旅」に出ようではないか！世界の海は広く、歴史の森は深いからだ。ただし、そこに、批判的な視点もかならず忘れずに(司馬の記述はすでに古くなっている面もあるし、彼の観方が一面的なばあいもあるので)。		
授業計画	第1回：オリエンテーション 第2回：アイルランドの風景(1) ・テキスト：『愛蘭土紀行(1・)』 第3回：アイルランドの風景(2) 第4回：アイルランドの風景(3) 第5回：オランダの風景 アイルランドとの比較(1) ・テキスト：『オランダ紀行』 第6回：オランダの風景 アイルランドとの比較(2) 第7回：アメリカの風景 アイルランドとの比較(1) ・テキスト：『ニューヨーク散歩』 第8回：アメリカの風景 アイルランドとの比較(2) 第9回：韓国/朝鮮の風景(1) ・テキスト：『韓のくに紀行』 第10回：韓国/朝鮮の風景(2) 第11回：中間レポート(授業の進捗状況により、日程が前後することもあります。授業内で実施前に実施日を確認します。) 第12回：近江or 舌岐・対馬の風景 韓国・朝鮮との比較(授業進捗状況により、一部DVD資料の割愛の可能性もあります。) ・テキスト：『湖西のみち』(or『舌岐・対馬の道』) 第13回：広島風景 韓国・朝鮮との比較(1) ・テキスト：『芸備の道』 第14回：広島風景 韓国・朝鮮との比較(2) 第15回：まとめ		
教科書・参考書等	使用テキストおよびDVD映像資料： 朝日文芸文庫版『街道をゆく』シリーズ(授業に必要な巻は必読!!)。NHKスペシャルDVDビデオ《司馬遼太郎 街道をゆく》シリーズ全巻。そのうち、特に上記「授業計画」で指示したシリーズ。		
授業で使用する メディア・機器等	テキストおよび映像資料(DVD画像資料など)		
予習・復習への アドバイス	司馬遼太郎の『街道をゆく』シリーズは、簡単に文庫本で手に入ります(あるいは、ほとんどの街の図書館にも置いてあります)。DVD映像はあくまでも原テキストをもとに、NHKが番組制作したものです。かならずテキストを手取るようにしてください。		

履修上の注意 受講条件等	
成績評価の基準等	中間レポート（授業理解チェック・レポート）：20パーセント程度。 期末試験：40パーセント程度。 平常（授業参加）：40パーセント程度。
メッセージ	
その他	学期中、担当教員の担当する教養・専門・大学院科目と連携し、ミュージアム見学会や研究会・シンポジウムへの参加を促すかもしれません（自由参加）。その時はぜひとも積極的にご参加を（ただし基本的には、参加費用は自己負担、交通安全は自己責任をお願いします）。 【パッケージ別科目共通資料掲載場所（もみじTop内）： https://momiji.hiroshima-u.ac.jp/momiji-top/learning/kyouyou/package.html 】
<p>学期末に授業評価アンケートを実施します。回答に協力してください。</p> <p>回答に対しては教員からコメントを入力し、改善につなげていきます。</p> <p>なお、受講者が著しく少ない場合などに、アンケートを実施しないときがあります。</p>	

年度	2014年度	開講部局	教養教育
講義コード	52009002	科目区分	パッケージ別科目
授業科目名	脳と知[P2B,PN1]		
授業科目名 (フリガナ)	ノウトチ		
英文授業科目名	Brain and intellectuality		
担当教員名	小川 景子		
担当教員名 (フリガナ)	オガワ ケイコ		
研究室の場所		内線番号	
E-mailアドレス			
開講キャンパス	東広島	開設期	1年次生 後期
曜日時限	金 7時限, 8時限	講義室	総K210
授業の方法	講義	授業の方法 【詳細情報】	講義中心
単位	2	週時間	2
対象学生			
授業のキーワード	脳、知識、知性、人間、認知		
教職専門科目		教科専門科目	
関連するプログラム			
教養教育又は パッケージの中での この授業の位置づけ	第2パッケージ:知の営みを問い直す		
学習の成果			
授業の目標・概要等	寝ている間に体験する夢を取り上げることで、私たちの意識体験について考える		
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 夢の5W1H (1) 第3回 夢の5W1H (2) 第4回 夢の科学的研究 (1) 第5回 夢の科学的研究 (2) 第6回 夢体験中の意識に迫る (1) 第7回 夢体験中の意識に迫る (2) 第8回 夢体験中の意識に迫る (3) 第9回 意識とは (1) 第10回 意識とは (2) 第11回 意識とは (3) 第12回 行動科学からみえる意識 (1) 第13回 行動科学からみえる意識 (2) 第14回 意識が広がる喜び (1) 第15回 意識が広がる喜び (2)		
教科書・参考書等	授業中に参考書を適宜指示する		
授業で使用する メディア・機器等	配付資料		
予習・復習への アドバイス	授業では、私たちの ” 意識 ” について、私たちの身近な夢見体験を題材に考えていく。講義では、小レポートでみなさんの意見を聞き、翌週にフィードバックすることで、議論を展開していく。気楽な気持ちで互いの意見を交換することで、 ” 意識 (視野) ” が広がる喜びを感じていただきたい。		
履修上の注意 受講条件等			
成績評価の基準等	授業中に行う小レポート (20%) と期末試験 (80%) により評価する		
メッセージ			
その他	【パッケージ別科目共通資料掲載場所 (もみじTop内) : https://momiji.hiroshima-u.ac.jp/momiji-top/learning/kyouyou/package.html 】		

学期末に授業評価アンケートを実施します。回答に協力してください。
回答に対しては教員からコメントを入力し、改善につなげていきます。
なお、受講者が著しく少ない場合などに、アンケートを実施しないときがあります。

年度	2014年度	開講部局	教養教育
講義コード	52010001	科目区分	パッケージ別科目
授業科目名	物理と情報[P2A,PN1]		
授業科目名 (フリガナ)	ブツリトジョウホウ		
英文授業科目名	Physics and Information		
担当教員名	石坂 智		
担当教員名 (フリガナ)	イシザカ サトシ		
研究室の場所		内線番号	
E-mailアドレス			
開講キャンパス	東広島	開設期	1年次生 後期
曜日時限	金 5 時限, 6 時限	講義室	総K204
授業の方法	講義	授業の方法 【詳細情報】	講義中心
単位	2	週時間	2
対象学生			
授業のキーワード	エントロピー、情報、エネルギー問題、生命活動、環境問題		
教職専門科目		教科専門科目	
関連するプログラム			
教養教育又は パッケージの中での この授業の位置づけ 学習の成果	第2パッケージ:知の営みを問い直す		
授業の目標・概要等	現代は情報化社会と呼ばれていますが、『情報』とはいったい何でしょうか?『情報』の起源をさかのぼると、物理学におけるエントロピーという概念にたどりつきます。産業革命の頃、熱に関係した現象を説明するために導入されたエントロピーという概念が、後に情報という概念にまで発展したのです。また、エントロピーは身のまわりの自然現象、とりわけ環境問題や生命活動を考える上で、とても重要な概念なのですが、あまり良く知られていません。この講義では、エントロピーという概念の発見と発展を通して人間の知の営みを振り返り、物理と情報の関わり合いを学びます。		
授業計画	第1回 自然界の成り立ち 第2回 熱論争 第3回 エネルギーは姿を変える 第4回 永機関とマックスウェルの悪魔 第5回 熱機関(エンジン) 第6回 エネルギーはどこまで利用できるのか? 第7回 エントロピーの正体 第8回 情報エントロピー 第9回 情報処理に潜む物理法則 第10回 通信と情報量 第11回 生物活動とエントロピー 第12回 ミクロの世界の情報処理 第13回 地球の温度は何度?(地球温暖化) 第14回 人間社会とエントロピー(環境問題) 第15回 まとめ レポート(中間に1度)および期末試験を行います。		
教科書・参考書等	参考書 エントロピーのめがね 戸田盛 岩波書店 (ISBN4-00-007725-2) エントロピーのおはなし 青柳忠克 日本規格協会 (ISBN4-542-90183-1) 物理学とは何だろうか 朝永振一郎 岩波新書 鏡の中の物理学 朝永振一郎 講談社学術文庫		
授業で使用する メディア・機器等	映像(PC/その他画像資料)		
予習・復習への アドバイス	予習は必要ありません。より理解を深めるには、参考書などを使って復習をすると良いでしょう。		
履修上の注意 受講条件等			
成績評価の基準等	期末試験(約60%)、レポート(約30%)と授業への取り組み姿勢(約10%)を総合的に評価		
メッセージ			
その他	【パッケージ別科目共通資料掲載場所(もみじTop内)】: https://momiji.hiroshima-u.ac.jp/momiji-top/learning/kyouyou/package.html		

学期末に授業評価アンケートを実施します。回答に協力してください。
回答に対しては教員からコメントを入力し、改善につなげていきます。
なお、受講者が著しく少ない場合などに、アンケートを実施しない場合があります。

年度	2014年度	開講部局	教養教育
講義コード	52013001	科目区分	パッケージ別科目
授業科目名	大学と社会[P2A,PN1]		
授業科目名 (フリガナ)	ダイガクトシャカイ		
英文授業科目名	University and the Society		
担当教員名	丸山 文裕		
担当教員名 (フリガナ)	マルヤマ フミヒロ		
研究室の場所		内線番号	
E-mailアドレス			
開講キャンパス	東広島	開設期	1年次生 後期
曜日時限	金 5 時限, 6 時限	講義室	総K208
授業の方法	講義	授業の方法 【詳細情報】	講義中心、板書多用、ディスカッション、資料配布
単位	2	週時間	2
対象学生	全学部生		
授業のキーワード	大学、教育、知識、文化、社会		
教職専門科目		教科専門科目	
関連するプログラム			
教養教育又は パッケージの中での この授業の位置づけ	知の営みを問い直す		
学習の成果	大学と社会について基本的知識を獲得する。 大学と社会について、自分自身の意見を持つようになる。 自分の意見を人前で発表できるようになる。		
授業の目標・概要等	大学と社会について、それら関係を把握する。 大学と社会についての基本的文献を読解する。 大学と社会について、自分自身でさらに学習する能力を養う。		
授業計画	第1回 大学の関連法律（丸山） 第2回 大学の設置形態（丸山） 第3回 大学のガバナンス（丸山） 第4回 大学の財政（丸山） 第5回 大学改革（丸山） 第6回 教育と経済 人的資本という考え方（村澤） 第7回 大学教育と就職 シグナリング理論（村澤） 第8回 社会階層の再生産と大学（村澤） 第9回 大学生論 橋本紘市編『大学生』（村澤） 第10回 大学教授というお仕事（村澤） 第11回 政治と大学：マレーシアを事例に(1)（佐藤） 第12回 政治と大学：マレーシアを事例に(2)(佐藤) 第13回 政治と大学：日本を事例に(1)（佐藤） 第14回 政治と大学：日本を事例に(2)（佐藤） 第15回 教育機関としての大学（佐藤）		
教科書・参考書等	授業時に指定		
授業で使用する メディア・機器等	テキスト，配付資料，		
予習・復習への アドバイス	授業時に指示		
履修上の注意 受講条件等	授業時に指示		
成績評価の基準等	レポートおよびテスト：詳しくは授業時に指示		
メッセージ	授業時には自分の意見を表明してください。		
その他	【パッケージ別科目共通資料掲載場所（もみじTop内）： https://momiji.hiroshima-u.ac.jp/momiji-top/learning/kyouyou/package.html 】		
学期末に授業評価アンケートを実施します。回答に協力してください。 回答に対しては教員からコメントを入力し、改善につなげていきます。 なお、受講者が著しく少ない場合などに、アンケートを実施しないときがあります。			

年度	2014年度	開講部局	教養教育
講義コード	52014002	科目区分	パッケージ別科目
授業科目名	美術と人間[P2B,PN3]		
授業科目名 (フリガナ)	ビジュツトニンゲン		
英文授業科目名	Fine Arts and Human Beings		
担当教員名	高地 秀明		
担当教員名 (フリガナ)	コウチ ヒデアキ		
研究室の場所		内線番号	
E-mailアドレス			
開講キャンパス	東広島	開設期	1年次生 後期
曜日時限	金 7時限, 8時限	講義室	総L201
授業の方法	講義	授業の方法 【詳細情報】	主に講義中心。パワーポイントやDVDなど、視聴覚教材による画像資料の提示を多用する。学生間の対話、教員と学生との対話を重要視する。
単位	2	週時間	2
対象学生			
授業のキーワード	美術と人間, 美術遺産, 絵画, 彫刻, 美術鑑賞, 科学と芸術, イメージの世界, 創造と表現		
教職専門科目		教科専門科目	
関連するプログラム			
教養教育又は パッケージの中での この授業の位置づけ	第2パッケージ:知の営みを問い直す		
学習の成果	美術文化をととした人間理解		
授業の目標・概要等	人類の誕生から今日まで、人間は絵や記号を描き、ものをつくるという造形的な行為を行ってきた。なぜ人間は絵を描き、ものを造るのか。幾つかの東西の美術文化事象を取り上げて、美術作品の生まれた背景や作家の意図に迫るなど、複眼的・総合的なアプローチにより人間と美術文化についての理解を深める。		
授業計画	<p>第1回 3万年前の洞窟壁画から20世紀のピカソまで、人間は何を描いたのか</p> <p>第2回 美術と科学(レオナルドのもの見方と表し方)</p> <p>第3回 美術と創造(ピカソのもの見方と表し方)</p> <p>第4回 絵画という方法-1(光と陰, 視点と空間, 筆致)</p> <p>第5回 絵画という方法-2(造形による言語)</p> <p>第6回 カンディンスキーと抽象画</p> <p>第7回 印象派の世界</p> <p>第8回 ジャポニスムと日本美術の特色</p> <p>第9回 シュールレアリスムと構想表現</p> <p>第10回 絵画を読む1(表現の意味と背景を探る:ルネッサンスのかたち)</p> <p>第11回 絵画を読む2(表現の意味と背景を探る:プリュージェルの寓意)</p> <p>第12回 絵画を読む3(表現の意味と背景を探る:宗教画の世界)</p> <p>第13回 絵画を読む4(表現の意味と背景を探る:歴史・神話画の世界)</p> <p>第14回 絵画を読む5(表現の意味と背景を探る:現在の美術)</p> <p>第15回 環境と美術、人間なぜ絵を描いたのか</p> <p>期末試験を実施します。また、毎時間ミニレポート提出があります。</p>		
教科書・参考書等	<p>特に教科書は指定しないが、以下の参考図書を推薦する。</p> <p>「美術の物語(ポケット版)」ゴンブリッチ, エルンスト・H 著 ファイドン株式会社</p> <p>「西洋近代絵画の見方・学び方(放送大学叢書)」木村三郎 著 左右社</p> <p>「名画を読み解くアトリビュート」木村三郎 著 淡交社</p> <p>「まなざしのレッスン 1 西洋伝統絵画」三浦篤(著) 東京大学出版会</p> <p>「NHKブックス絵画を読むイコノロジー入門」NHK出版</p>		
授業で使用する メディア・機器等	パワーポイント・DVDなど、視聴覚教材による画像資料の提示を多用する。		
予習・復習への アドバイス	「人間は何故、どのように描いたのか。」その意味や背景を探究し、美術文化への理解を深めるために、推薦図書を読み、美術に関する図書やTV番組などからも積極的に学んでほしいと思います。		
履修上の注意 受講条件等			
成績評価の基準等	授業への参加態度と毎時間課すレポート40%(程度)及び定期試験60%(程度)により行う。		
メッセージ			
その他	【パッケージ別科目共通資料掲載場所(もみじTop内)】: https://momiji.hiroshima-u.ac.jp/momiji-top/learning/kyouyou/package.html		

学期末に授業評価アンケートを実施します。回答に協力してください。
回答に対しては教員からコメントを入力し、改善につなげていきます。
なお、受講者が著しく少ない場合などに、アンケートを実施しない場合があります。

年度	2014年度	開講部局	教養教育
講義コード	52015002	科目区分	パッケージ別科目
授業科目名	大学と学生[P2A,PN1]		
授業科目名 (フリガナ)	ダイガクトガクセイ		
英文授業科目名	Higher Education and Student		
担当教員名	吉田 香奈		
担当教員名 (フリガナ)	ヨシダ カナ		
研究室の場所		内線番号	
E-mailアドレス			
開講キャンパス	東広島	開設期	1年次生 後期
曜日時限	火 1 時限, 2 時限	講義室	総K105
授業の方法	講義	授業の方法 【詳細情報】	講義、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション
単位	2	週時間	2
対象学生			
授業のキーワード	大学、高等教育、教育制度、機会均等、質保証、大学入試、教授法、カリキュラム		
教職専門科目		教科専門科目	
関連するプログラム			
教養教育又は パッケージの中での この授業の位置づけ	第2パッケージ:知の営みを問い直す		
学習の成果	今日の大学教育をめぐる諸課題を多角的に検討し、具体的な改善案を示すことができる。		
授業の目標・概要等	<p>本授業では、知の営みの場である「大学」に注目し、大学の誕生・発展から現代の課題までを幅広く学んでいく。いくつかのトピック（大学進学格差と機会均等、大学入試制度、大学の教授法、大学のカリキュラム）を取り上げて、何が課題なのか、どう改善すればよいのかをディスカッションやディベートを通じて考えていく。</p> <p>本授業を通じて、大学に進学して学ぶことの意味や学び方について考えるきっかけにしてほしい。</p>		
授業計画	<p>第1回 インTRODクシヨソ</p> <p>第2回 大学の歴史と制度：誕生から現在まで（1）</p> <p>第3回 大学の歴史と制度：誕生から現在まで（2）</p> <p>第4回 大学進学をめぐる課題を考える：進学格差と機会均等（1）</p> <p>第5回 大学進学をめぐる課題を考える：進学格差と機会均等（2）</p> <p>第6回 大学入学をめぐる課題を考える：大学入試制度（1）</p> <p>第7回 大学入学をめぐる課題を考える：大学入試制度（2）</p> <p>第8回 大学における教育方法を考える：大学の教授法（1）</p> <p>第9回 大学における教育方法を考える：大学の教授法（2）</p> <p>第10回 大学のカリキュラムを考える：教養教育と初年次教育（1）</p> <p>第11回 大学のカリキュラムを考える：教養教育と初年次教育（2）</p> <p>第12～14回 グループワーク</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>最終日に試験を実施する。</p>		
教科書・参考書等	<p>高妻紳二郎編著『新・教育制度論』ミネルヴァ書房、2014年。</p> <p>安原義仁・大塚豊・羽田貴史著『大学と社会』放送大学教育振興会、2008年。</p> <p>小林雅之『進学格差』ちくま新書、2008年。</p> <p>有本章・羽田貴史・山野井敦徳編著『高等教育概論 大学の基礎を学ぶ』ミネルヴァ書房、2005年。</p> <p>館昭・岩永雅也『岐路に立つ大学』放送大学教育振興会、2004年。</p>		
授業で使用する メディア・機器等	配付資料、映像資料		
予習・復習への アドバイス	<p>【予習】配布資料の指示された箇所を事前に読んでおくこと。</p> <p>【復習】提示された学習課題をまとめておくこと。</p> <p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 ヨーロッパ中世大学の成立経緯と他国への伝播について理解しよう</p> <p>第3回 日本における大学の発展について理解しよう</p> <p>第4-5回 大学進学の格差について考えよう。誰が進学しているのか？</p> <p>第6-7回 大学入試制度と入学制度について考えよう。日本は特殊な国？</p> <p>第8-9回 大学における教育方法と教育評価について考えよう。いい授業とは？</p> <p>第10-11回 カリキュラムについて考えよう。なぜ教養教育を学ぶのか？</p> <p>第12～15回 グループワーク・発表・まとめ</p>		
履修上の注意 受講条件等			
成績評価の基準等	最終試験(60%)、小レポート(20%)、グループワーク・発表(20%)、により総合的に評価する		
メッセージ	大学教育のあり方について考えてみたい人や教育学の領域に興味のある人にお勧めです。		

その他	【パッケージ別科目共通資料掲載場所（もみじTop内）： https://momiji.hiroshima-u.ac.jp/momiji-top/learning/kyouyou/package.html 】
<p>学期末に授業評価アンケートを実施します。回答に協力してください。 回答に対しては教員からコメントを入力し、改善につなげていきます。 なお、受講者が著しく少ない場合などに、アンケートを実施しない場合があります。</p>	